

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：37125

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K10959

研究課題名（和文）高齢者の介護購買力が家族介護者の仕事と生活に与える影響

研究課題名（英文）Formal care purchasing power of older care recipients and the financial impact on their families

研究代表者

本田 歩美（Honda, Ayumi）

聖マリア学院大学・看護学部・講師

研究者番号：30732341

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本調査は、高齢者の介護購買力（介護費用を支払う経済力）が介護者の仕事や生活に与える影響について検討することを目的に実施した。介護購買力の高い（高齢者自身が介護費用を支払っている）高齢者をもつ家族（337人）は、介護費用を負担している家族に比べて、世帯年収が350万円以上の世帯が4割（43.9%）を占めていた。一方、介護費用を負担している家族（126人）では、介護者の4人に1人（26.2%）が介護に伴う経済的な負担が生活に影響していると回答しており、高齢者自身が介護費用を支払っている世帯よりも世帯年収350万円以上の世帯は3割（33.3%）と少なかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高齢者の介護購買力（介護費用を支払う経済力）が介護者の仕事や生活に与える影響、介護者の介護負担や介護資源の利用状況との関連について検討した本研究の成果は、仕事と介護を両立している家族の介護負担の軽減とQOLの向上に寄与する。また、本調査ではCOVID-19感染症対策として、介護サービスの利用制限あるいは介護施設における面会制限による高齢者とその家族への影響について調査しており、介護サービスを利用されている高齢者とその家族を支えるケアの充実を図る資料として活用することができる。

研究成果の概要（英文）：The study participants were 427 family caregivers who were utilizing long-term care services for their loved ones. The outcomes were economic burden and financial hardship due to care provision. The primary predictors included caregiver characteristics and contexts, such as annual household income, out-of-pocket payments, psychological distress, and disability level of the older care recipient. Among family caregivers living with an older care recipient, those who perceived both economic burden and financial hardship experienced multiple negative effects associated with not only a lower annual household income, but also an older relative with a greater severity disability level. Family caregivers who did not experience both economic burden and financial hardship tended to have older care recipients who could pay for their own care costs.

研究分野：地域・在宅看護学

キーワード：COVID-19 介護負担 家族介護者 介護費用 経済的困窮 通所介護サービス 施設介護 要介護高齢者

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

これまでの研究において、介護形態の選択には介護者の就労状況と世帯年収が関係しており、介護が介護者の仕事や生活に与える影響は、介護形態だけでなく高齢者自身の経済力によっても異なることが示唆された。介護費用を負担している家族では、家計からの介護費用の捻出は労働報酬と介護サービスの受給とを代替えにした介護になっていることが考えられた。また、介護に充てる経済的な余裕がない家庭では、高齢者とその家族の介護ニーズとライフスタイルに合った利用できる介護サービスの選択肢が限られ、介護をする家族の生活時間や就労時間の制限、介護に伴う負担も増加することが考えられた。高齢者自身が介護費用を支払っている家族と介護費用を負担している家族とを比較し、高齢者の介護購買力が介護者の介護負担および介護者の仕事と生活に与える影響について明らかにする必要があると考え、本研究を計画した。

2. 研究の目的

本研究は、介護が必要な高齢者をもつ家族を対象に、介護サービスを利用している高齢者の経済状況が家族介護者の仕事と生活に与える影響を明らかにすることを目的に実施した。

3. 研究の方法

令和3年2月～9月において、介護老人保健施設に入所している高齢者、または居宅および通所介護サービスを利用している高齢者をもつ家族介護者を対象に、質問紙調査を実施した(896部配布し、うち488部を回収した)。調査への拒否および無回答を除く479人から回答を得た。

高齢者を介護している家族に行った調査内容は以下のとおりである。

- (1) 属性:年齢、性別、婚姻状況
- (2) 経済状況:世帯収入、介護に要する経済的負担
- (3) 身体的健康状態:主観的健康観、睡眠状態
- (4) 子育ての有無、その子どもの年齢
- (5) 介護状況:行っている介護、介護負担、介護に対するサポートの有無
- (6) 就労状況:就労の有無、雇用形態、仕事と介護を両立する上で直面した課題の有無
- (7) 精神的健康状態:K10スケールを用いた精神的健康状態
- (8) 要介護高齢者の属性:性別、年齢、介護者との続柄、介護度、認知症の診断の有無、周辺症状の程度
- (9) 居住環境:居宅(独居または家族と同居)、施設(介護老人保健施設、その他)
- (10) 介護費用:1ヵ月の介護費用
- (11) 介護費用の支払い:高齢者自身が支払っている、家族が支払っている、高齢者と家族の双方が支払っている
- (12) 面会が制限されることで困ること、心配なこと:施設に入所している高齢者をもつ家族による自由記述

(13) 介護サービスが制限されることで困ること、心配なこと：居宅または通所介護サービスを利用している高齢者をもつ家族による自由記述

本研究は、聖マリア学院大学の研究倫理審査委員会において承認(R02-008:2021年1月14日)されたのち調査を実施した。調査の実施に際し、調査の趣旨を理解し、同意の得られた家族介護者のみを対象とした。

4. 研究成果

高齢者自身が介護費用を支払っている世帯は337世帯あり、そのうち4割(43.9%)の世帯が世帯年収350万円以上であった。一方、介護費用を家族が負担している世帯は126世帯であった。介護費用を家族が負担している世帯では、介護者の4人に1人(26.2%)が介護に伴う経済的な負担が生活に影響していると回答しており、高齢者自身が介護費用を支払っている世帯よりも世帯年収350万円以上の世帯は3割(33.3%)と少なかった。経済的な負担が生活に影響している世帯では、介護費用の捻出はより介護者世帯の生活水準の低下、介護者自身の老後に備える介護購買力の低下につながるかもしれない。

新型コロナウイルス感染症対策として、介護施設では面会制限が行われており、施設に入所している高齢者と家族が面会できない状況が続いていた。家族の中には、高齢者の施設での様子が分からず心配や心理的葛藤を抱えている家族、介護できないことへのストレスを感じている家族も多く、面会制限による精神的ストレスも介護者の生活に影響を与えていた。また、居宅および通所介護事業所では、サービスの利用制限やショートステイの受け入れを中止したところもあり、利用サービスの制限により介護負担が増加した家族、仕事を休んだ家族もいた。介護サービスの利用回数やサービス内容の縮小が介護者の仕事と生活に影響を与えていたことも明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 本田歩美	4. 巻 24
2. 論文標題 コロナ禍における介護施設に入所している高齢者をもつ家族の介護ストレス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 82-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Honda Ayumi, Liu Yin, Ono Mayo, Nishida Takahiro, Tsukigi Tatsuya, Fauth Elizabeth B., Honda Sumihisa	4. 巻 80
2. 論文標題 Impact of visitation restrictions on the mental health of family caregivers during the COVID-19 pandemic: A mixed methods study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Advanced Nursing	6. 最初と最後の頁 1652 ~ 1665
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/jan.15918	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Honda Ayumi, Liu Yin, Fauth Elizabeth B., Fleming Daniel J. M., Zarit Steven H., Maeta Shunsuke, Date Yutaka, Tsukigi Tatsuya, Honda Sumihisa	4. 巻 Epub ahead of print
2. 論文標題 Predictive Factors of Negative Spillover From Caregiving to Employment Among Japanese Family Caregivers With Older Relatives in a Care Facility	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The International Journal of Aging and Human Development	6. 最初と最後の頁 2023 Aug
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/00914150231194241	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Honda A, Nishida T, Ono M, Honda S.
2. 発表標題 Impact of visiting restrictions on the mental health of Japanese family caregivers with older relatives in a care facility during the COVID-19 pandemic
3. 学会等名 第12回IAGGアジア/オセアニア国際老年学会議(IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023, IAGG-AOR2023) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 本田歩美
2. 発表標題 コロナ禍における要介護高齢者をもつ家族のストレス：混合研究法 介護施設に入所している高齢者をもつ家族と在宅で介護している家族との比較
3. 学会等名 第73回聖マリア医学会学術集会.
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	本田 純久 (Honda Sumihisa) (90244053)	長崎大学・医歯薬学総合研究科(保健学科)・教授 (17301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
米国	ユタ州立大学	人間発達学部	